

第5回鳥取・岡山両県知事会議

日 時 平成25年1月18日(金)
17:00～18:00
場 所 依山楼岩崎「花まつり」

○司会 それでは、定刻となりましたので、ただいまから鳥取・岡山両県知事会議を開会いたします。

まず、鳥取県の平井知事よりごあいさつ申し上げます。

○平井知事 伊原木知事、ようこそいらっしゃいました。こんにちは。そして三宅局長様、泉水様初め岡山県の皆様にも心から歓迎の言葉を申し上げたいと思います。

ちょうど雪が降りまして、雪景色の三朝での会議ということになりました。今日来ていただいて御覧いただけたと思うんですけれども、ちょうど岡山県の県北から、ここ鳥取県の中部というのは地形的にもよく似ておりますし、雪の積もりぐあいにもよう似たもんだったというふうに思います。

いにしえより、この岡山県と鳥取県とはいろんな縁がございます。そういう意味で、新規に就任なさいました伊原木知事もフレッシュな感覚で、両県のかけ橋を私と一緒に務めていただけると本当にありがたいというふうに思います。

先ほどは親しく倉吉市内を御覧いただきました。ちゃんと蒜山のジャージー牛の飴を売っておいしかったですけれども、別に今日だけ売っとるわけじゃございませんで、ふだんから交流も深く、観光客もオーバーラップしておりますので、そういう意味で周遊を楽しんでいただけているということも目の当たりにしていただけたかなと思います。

いよいよ1300年祭が始まる美作国、4月3日からでございますけれども、盛んな大会になればいいなというふうに思います。私も以前、鶴山公園の桜を見に伺ったことがございますが、それは見事なものでございまして、いろんな地域の宝がこの両県のところにはございます。それをつなぎ合わせることによりまして、新しい地域づくりをしていかなければなりません。

ただ、残念ながら、政治なり国政なりの影響も我々地方自治体としては受けることが多いわけでありまして。先般来、伊原木知事とも意見交換しておりますけれども、今の給与と交付税をごちゃまぜにするような議論というのは何とか排除をしていかなければなりませんし、その影響をできるだけ私たち現場でも回避をしていかなければならないと思います。

また、新しい時代でございますので、海外からの観光客も来ますが、台湾など、岡山県はいわば西日本の国際的な玄関口となっております。そうした意味でも共同でできるこ

とがいっぱいあろうかと思えますし、動物も、鳥取県と岡山県と両方を住所地にして住んでいるものですから行き来をしております。そういう意味で、そうした有害鳥獣対策など、これも知恵を出し合ってやっていかなければならないことがございます。そんな様々な課題につきまして、ぜひ伊原木知事の御指導をいただきながら、この両地域を育てていければありがたいと思えます。

私たちは実は表裏一体の関係、不即不離の関係にあります。歴史がそれを証明しているわけでございます。1632年に岡山池田藩が発足をしました。また、私どもの藩祖も1632年にできているわけでございます。池田光政公、これは実は岡山の初代藩祖でいらっしゃいますが、鳥取藩から行きました。また、私どもの池田光仲公は岡山藩から来られました。まだ幼少のみぎりでありました光仲公を支える後見の役を、光政公が岡山から果たすということもございました。

それだけではございませんで、また時代を下っていても、当県の方の池田藩、鳥取池田藩の池田治道公、この方はお子さんが多く子たくさんで文化にも親しんだ方であります。稲村三伯が生まれたのはこの時期でございます、「ハルマ和解」をあらわした方ですが、そういう文化振興だけでなく、子づくりも上手だったそうでございます、たくさん子供さんがいらっしゃいましたが、その中で7代藩主、そして8代藩主は、池田斉邦等でございますけども、鳥取の方で藩主を務められました。その子供の中には、弥姫というなかなか気丈な女性がいて、これ後に「篤姫」の物語で有名になる方あります。ドラマにも出てきます。その弥姫の子供として生まれたのも、これも実は岡山の池田7代藩主になられます。こういうように血がつながっていますし、お互いに行き来もある、歴史を繰り返しながらやってきたわけであります。

私たち、改めてここで一体の地域であることをお互い認識をして、これから道州制とか広域連合だとか広域連携とか、そういうようなことが実に間近に迫ってくる時代だと思っております。そんな時に伊原木知事というニューリーダーを得て、私も一緒になって奮闘努力したいと思います。両地域のきずながますますこの会議を通じて深まること、そして美作国の建国1300年祭、さらに様々な県の行政が岡山県において発展することをお祈りを申し上げまして、私の方からの歓迎のごあいさつとさせていただきます。どうも今日はありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

続きまして、岡山県の伊原木知事様よりごあいさつをお願いしたいと思います。よろし

くお願いします。

○伊原木知事　こんにちは。岡山県の伊原木隆太でございます。本日はこのようにお招きいただきまして本当にありがとうございます。また、先ほどは倉吉市のすばらしい町並みを御案内いただきまして、本当に感激をいたしました。

今日は大半が鳥取県のメディアだというふうに伺ってしまして、少し安心をしてお話をさせていただくわけでありすけれども、私、行政の経験なしに2カ月ほど前に県知事に就任をいたしまして、就任後すぐ中国5県の知事会議がございました。そこで議長を務められましたのが平井知事でいらっしゃるしまして、先ほどの、原稿なしにあんなすばらしいごあいさつをされるぐらいですから、鳥取県の県民の方からすると当たり前のことなのかもしれないけれども、普通はこうはいかないわけでありまして、私も本当に平井知事のすごさというか、見事な会議のさばき方に感銘を受けまして、本当にその時に思ったのは、こんなすごい人と選挙を戦わずに済んでよかったという思いでございます。私は昔から自分よりも優秀な人とは戦わないで仲よくするということを信条にいたしておりまして、すぐに県知事としての大先輩でいらっしゃいます平井知事に、できるだけ御指導いただける機会を増やしたい旨申し上げましたら、年に1回こういう交流があるので、これは早目に企画してあげようというふうに御親切におっしゃっていただきまして、できるだけ早い機会にとお願いして、今日このような段取りになったことを大変私はうれしく思っております。

私自身、ぜひ岡山県をよくしていきたい。その時に、何か霞が関の指導のもとにですとか、それで私、岡山がよくなる可能性ゼロではないんですけども、ぜひ岡山県は岡山県としてそのいいところを伸ばして行って、悪いところを補って行って経営をしていきたい。その時に、ぜひこの近隣の県と協力をしながら、提携をしながら、教えていただきながら、岡山県をもっといい県にしたい、そう思った時に、鳥取県にこういうリーダーがいらっしゃる、ぜひいろいろ教えていただきたいと思っております。

先ほどの倉吉の取り組みについても、私自身随分感銘を受けまして、私、倉敷は西日本で一番だと思っておりましたら、随分近いところでライバルが育っていると。倉敷にないような工夫も幾つかありまして、ぜひいろいろ参考にさせていただいて、この山陰、山陽、よきライバルとして切磋琢磨していきたいと、このように思った次第でございます。

今日はいろんな議題について意見交換をさせていただけるということで、大変楽しみにいたしております。ぜひともよろしく願いいたします。

○司会 ありがとうございます。

これから意見交換に入っていきたいと思いますが、進行につきましては平井知事の方からお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○平井知事 それでは、伊原木知事にも御参加いただく光栄を得ながら、この会議を進めさせていただきたいと思います。

今日は鳥取県内のメディアが多いということがございますが、あそこにNHKがおられますので、これは多分向こうでも流れますから、こっちには笑顔を送っていただければというふうに思います。

先ほど倉吉につきましてお褒めの言葉をいただきましたけれども、全国調査で西の方、蔵のあるまち、行ってみたいところナンバーワンは倉敷でございまして、倉吉は6番目か7番目だったと思いますけれども、最近いろいろと努力をしまして、倉敷を見習ってやっておるわけでございます。そんな意味でも、漫画だとか、あるいはそういう蔵のあるまちとか、そういう共通点も多いので、テーマ性を持って、陰陽連携で周遊していただけるようになればうれしいかなと思います。

幾つか議題を用意しております。事前に伊原木知事にも議題を調整しながらやってまいりました。

まず冒頭で、これ先般伊原木知事からもお話があつて、私の方で、やっぱりアピールぐらいしなきゃいけないんじゃないかと申し上げた件でございますが、お手元の方に地方財政対策に係る地方公務員給与の取扱に関する緊急アピールというものを outs させていただきました。また伊原木知事の御意見もいただきたいと思います。この岡山県、先般お伺いをしたところでは、とつても給与是正につきまして、非常に職員の方の深い御理解も苦勞して得ながらやってきていると。実は鳥取県もよく似た状況がございます。全国でも、これは麻生副総理がおっしゃっていますけれども、麻生さんは、一遍覚えるとどこでもかしこでもしゃべるんですが、国より給料が低い県として岡山、鳥取、北海道と、この3つを覚えておられます。大阪もそうじゃないかなと思ったりもするんですが、そういうようなことで、そういう厳しい状況の中で給与是正をしてきた。これは県民の税金でございますし、お互いに財政を再建していかなければならないという共通の使命を持っておりまして、苦勞してやってきているわけでありまして。

しかるに、今日、給与が国家公務員よりも高いという喧伝がなされまして、これが間違っているんですね。この両県は違うと思います。喧伝がなされまして、だから交付税はカ

ットするんだと。これも手段として僕はおかしいと思っています。そうだったら、例えば東京都、ここも立派に給料をたくさん払っておられますけども、ここは交付税をもらっていませんので、どうしようもないわけですよ。ですから、手段として交付税を減らすというのはどうかなというように思います。そんな意味で疑問を私も伊原木知事同様持ったものでございますから、本日ここに用意させていただきましたアピールを原案として作成させていただきました。

御意見、知事からもいただければありがたいと思います。

○伊原木知事 私が強く思っていることに関して、このように御提案していただきまして非常にうれしく思っています。

私もびっくりしてしまして、私、行政の常識が余りよくわかっていないんですけれども、どこの常識であっても、これは余りにも乱暴だろうと。何か趣味で給料を減らしているわけではありませんが、本当に厳しいやりくりの中で、ぎりぎり最後の手段で減らしてきた。そこからさらに減らせという、いや、それならあなたがやってみろみたいなことでありまして、とにかくここはきちんと大きな声で伝えなければいけないと思っています。特に民間から来て役所に入って、随分ちんたらやっているのかもしれないというふうに思っていたんです。結構みんな頑張っていますよ。そこをこんなことをされたら、本当に仕事ができない。ぜひ厳しく、大きな声で言っていきたいと思います。どうもありがとうございます。

○平井知事 それでは、この緊急アピールについては、このように採択を両者として、じゃ、これで両県の緊急アピールとすることに決させていただきたいと思います。

この後は意見交換に入らせていただきたいと思います。

まず、中国地方広域連合（仮称）でございますが、こういうことにつきまして私の方からまず提案をさせていただきたいと思います。

伊原木知事もビジネスをずっと経て入ってこられて、実感もされていると思います。2つの地方行政について相反するものがあるかなと。一つはスケールメリットですね。また、経済の実勢として考えて、やっぱり広域的に一緒に仕事をしていくことを経済界ももちろん望むでしょうし、県民サービスとしてもそうじゃないかと思います。例えば医療の面で言えば、このあたりには御覧いただいたようにいろんな病院とかもございます。先ほどお通りいただいたところでは岡山大学の附属医療センターもある。こういうようなことで、県境というのは本来ないわけでございます。そういうようなことで考えていただければ、

ももっとも広域的に一緒にやる必要があるというようなことになろうかと思います。ですから、今後道州制の議論が、政権交代もございましたので、自民党や公明党、また民主党も公約に掲げておられましたから、今後進む可能性がある。

ただ、その議論が進むにしても、やっぱり片方で一気にいくわけではないと思います。広域的な連携を強め、そういう意味で、このたびドクターヘリの共同運航化を目指した基本協定を（中国地方の）5人の知事の間で合意をまとめたところでございますが、そういうところなどをぜひこれから進めていかなければならないと思いますし、その一つの発展形として、広域連合というような枠組みをお互いに検討して、もちろん県議会や住民の理解も得ながら進めていく、そこに例えば観光だとか産業とかそうしたいろんな共同事業をやっていく、こういうことを考えていく時代ではないかなというふうに考えております。

実は鳥取県は、関西広域連合というところに入っていて、どっちを向いているんだとよく言われるんですが、岡山を向いてますんで、間違いなく。やっぱり近いのは中国地方でありますし、行政的なつながりも深いですから。ただ、今あちらの方にも顔を出して、全加入でなくて一部加入しているんですが、それでいろんなやり方があるなと勉強をさせてもらっています。限りなくコストをかけない広域連合のやり方というのはあると思います。また、広域連合をやった場合に、議会もそうでありますけども、一つの輪の中に入ってみんなで議論をするようになりますと、大分行政のあり方が変わってくる兆しが出てくるように実感をいたしております。

そういう意味で、もちろん相反するもう一つとしてデモクラシーの問題というのがあって、あんまり大きな自治体をつくりますとデモクラティックコントロールがきかなくなる危険もあるわけです。やはり県というのはなかなかいい組織でありまして、岡山県が明治以来ずっとやってきている、意思決定の単位としてやっぱり機能しているのは間違いありません。それに住民も親しんでおります。ですから、デモクラシーの観点からすると、従来の枠組みというのも非常に大きな意味がある。その意味で、広域的な行政と広域連携と従来のデモクラシーの枠組み、単位と、これを共存させるような形で広域連合というのをもうそろそろ真剣に考えてもいいのではないかというふうに思っています。この辺にもぜひ中国地方のリーダーでもあります岡山県にも御理解をいただきながら、さらに検討を進めることができればと思っております。

伊原木知事のお考えもお聞きできればと思います。

○伊原木知事 ありがとうございます。私自身、まだ行政の仕事始めて2カ月ですので、

広域連携、広域連合、特定広域連合について、授業を受けながら勉強しているような状態でありませけれども、でも、おっしゃられたとおり、ビジネスの世界におけるスケールメリットというのは強力でありまして、いかに効率よく行政サービスを行っていくかということを見ると、どうしても手をつないでいこう、協力していこう、お互いにとっていいことを進めていこうという考えになるのは、これは責任あるポジションにいる人が当然考えることだと思います。

具体的な方策についてはこれからいろいろ研究していくんですけども、実際に広域連合に参加されている鳥取県さんの、何というか、どこがいい、どこが悪いとか、具体的なお話をお伺いできるというのは非常にありがたく思っています。おっしゃられましたように、議会ですとか県民の皆様よりも余り先に進み過ぎるといけないので、きっちりお話をお伺いしながらなんですけれども、10年後どうなっているかということ、必ず前に進んでいるはずだという確信を持っています。ぜひいろいろ一緒に考えていきたいと思っています。特に国の権限の受け皿になるべき特定広域連合については、しっかり考えていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

○平井知事 ありがとうございます。

それでは、次の議題に、意見交換に入りたいと思います。

有害鳥獣対策と利活用についてですが、これについては、伊原木知事の方からの御提案がございませるので、お願ひいたします。

○伊原木知事 ありがとうございます。

これはもう御案内のことだと思うんですけども、ツキノワグマにつきましては、もともと絶滅のおそれがあるということで保護をしてきた。その努力をしてきたわけでありませけれども、最近、その仕事が非常にきちんとできるようになりまして、あとそのほかのいろいろな理由で、随分里に出てくるようになったと。出てくるぐらいだったらかわいいんですけども、負傷者まで出るようになってくると、これは県民の安全を守る立場としてちょっと対応を変えなければいけない。岡山県では年を追うごとにその件数が増えておりまして、ついには私ども、有害獣として殺処分ができるように規定を変えております。さっき冒頭のごあいさつでおっしゃっていただきましたように、住民票とかそういうことがなくて3県の境を行ったり来たりしていることがありますので、一つの県だけでやっても余りきちんとした効果がとれない。ぜひ鳥取県さんとも連携をして、少なくともこういうことをやっています、歩調を合わせませんかという連絡をとって、バランスのい

い、ツキノワグマの保護と県民の安全の確保をきちんとやっていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○平井知事 わかりました。大賛成でございます。

鳥取県の状況を申し上げますと、クマですと2つの群れが鳥取県にあります。一つは兵庫県側から攻めてくる東中国というクマでございまして、こちらの方の個体群。あと西中国の個体群が、これが広島、島根から攻めてくるわけです。両方入ってきておりまして、我々挟み打ちになっておるわけでありましたが、東中国の方は岡山県さんと同じ個体群になります。

我々の方で調べてみますと、急速に数が増えてきたということがわかりました。私どもも保護管理計画を改めまして、いろいろ住民の方の御意見も聞きましたけれども、今、今までは要は、例えば教育放獣というようなやり方とかもあるわけでありまして、里の方におりてきた場合、そういうような場合につきましての殺処分というものを従来よりも厳格化するようにいたしました。と申しますのも、実際に襲われて人命が失われたということもございまして、大変に問題も大きくなってきたということでもあります。それで、どんどん個体数が増えて急増しているものですから、そこを抑制しても十分保護管理もできるということでございます。従いまして、今、伊原木知事がおっしゃったように、両県、さらにはできれば兵庫県なんかも入れて話し合い、情報収集をしたり、処分のあり方について意見交換をできればいいなと思います。

有害鳥獣については、あとシカとかイノシシがあります。私どもも、イノシシはもう全県に広がっております。また、シカにつきましては、やっぱりこれ東から攻めてこられていまして、岡山県境と兵庫県境から入ってきていると。だんだん増えてきております。イノシシとシカが入ってきておりますから、あとはチョウチョがいれば役ができるという、くだらない話でありますけども。そのシカが入ってきておりまして、これも大変なんですね。それもやはり一斉駆除をすとか、九州の方ではそういう地方もございまして。効果のほどがどれほどあるかについては諸説あるんですけども、そういうことなども含めて、従来よりも突っ込んだ体系ができればいいなと思います。

この後、伊原木知事から御提案があるようなジビエとしての利活用等、ぜひ協力してやっていければと思いますので、その辺も御教示いただければと思います。

○伊原木知事 先ほどおっしゃっていただきましたジビエ料理等への活用、私は、これも民間経験で、常にやっぱり弱点、それから強みがあるとするならば、強みは伸ばす、弱点

はできるだけカバーをする。一番やりたいのは、めったにできないんですけれども、弱みを逆手にとるということができないかというふうに思っています。

ジビエ料理というのはちょっとそれに近いところがありまして、私がたった1年だけ過ごしたフランスで、ディジョンのあたり、パリからちょっと下がったあたりなんですけれども、食べ物のおいしいところです。ワインの産地、ブルゴーニュですね。あそこはエスカルゴの産地なんですけれども、エスカルゴは、今はもうおいしいおいしいといって食べるんですけれども、もともとはワインのためのブドウの木にべたっとくっついてる要するに害虫で、それはカタツムリですから、それはあれがいっぱいくっついてると気持ち悪いと思うんですよ。あれを一つ一つはがしていたと。あんまりいっぱいあるから食べちゃえみたいな。で、食べてみたらおいしかったと。今、フランス料理を代表する料理ですので、ああいう何かうまい使い方はないのかな。

実際にジビエはフランス料理でも高級料理でありまして、ぜひ広めていきたいと思えます。岡山では10店、イノシシ料理を出すお店、これもフランス料理でありまして、高級料理として出していますので。地元、田舎料理としてのイノシシ料理もいいんですけれども、いろんなやり方で広めていきますので、ぜひ御一緒によろしく願います。

○平井知事 ぜひその点でも協力できないかなと思います。

私どもも因幡でジビエ協議会というのがこのたび発足して、今おっしゃるように、イタリア料理風のところもございますし、それからあと居酒屋的なところもやっていたり、そういうようにだんだんと今、店舗数も増やしております。やっぱり処理の仕方とか流通も大切だと思うんですね。両県でもし共同できれば、例えばそういうノウハウを我々も蓄積をして、最近ですと東京の方の高級レストランに出荷をしたりということもできかけておりますけれども、それはやはり処理の仕方とか重要なノウハウのことがあるそうです。鳥取県としても、JTBさんが今始められた全国のジビエの協議会の中に加わろうとしておりまして、ぜひ一緒にこれもやればなと思います。

先般、家内とこの三朝に来たついでだったのですが、湯原の方に行きましたら、ちょうどしし肉の日だったですね。しし肉料理の日がございました。そのように非常に岡山も先進的に取り組んでおられて驚きましたけれども、ぜひともこの辺もお知恵をいただきながら進めさせていただければありがたいと思います。

そうしたようなことで、ジビエ料理等の特色ある資源もございますが、広域的な観光を推進することが大切だと思います。まず、美作国の建国等を伊原木知事の方からお話をい

ただければと思います。

○伊原木知事 この鳥取の皆様にごひPRしたいなと思つて参りました。実は今年、美作国が建国されて1300年を迎えます。

美作国ってどこだということなんですけれども、岡山県の右上のあたりです。岡山県、実は3つのパートに分かれていまして、備前、西半分縦に備中があるんですけれども、この東半分の上側、これは美作になります。備前国から分かれて1300年ということになっております。それを岡山県、大々的にPRしていこうということで、あさのあつこさんの書きおろしのミステリーツアーをしたりですとか、もしくは奈義町出身の漫画家、岸本斉史さんの「NARUTO」のラッピング列車、これは鳥取県も通らせていただくということになっておまして、いろんなやり方でこの美作国をPRしてまいります。鳥取の方からしても、非常に近くて行きやすい場所ですので、ぜひとも足を運んでいただければと思います。

鳥取県は鳥取県で漫画で有名だということで、我々も漫画つながりで少しずつ交流を深めていきたいと思つております。よろしくお願ひいたします。

○平井知事 すばらしいイベントなんで、ぜひ協力して美作国建国1300年の成功を期してまいりたいと思つます。

私どももあわせて5月26日には全国植樹祭を西部のとっとり花回廊で行います。また、岡山市でもあの工場の跡地のところですか、やられましたけれども、今年の9月21日から11月10日にかけては全国都市緑化フェアを、今度は鳥取市の方で行いまして、また、ここ中部や、あるいは鳥取県西部もサテライト会場で行うということにいたしております。また、国際ツーリズム大会等、いろんなイベントをやりながら、今年は自然を売り出すエコなツーリズム等の振興を図るように考へておまして、グリーンウェイを起こそうと思つております。ぜひこういう、共通のところは蒜山と大山と実はつながった観光地でありますし、そういう緑を楽しむところ。また、電気自動車も三菱自動車もございまして、岡山県も盛んにやっておられて、電気自動車の充電スタンドも多いわけですが、鳥取県も岡山と連帯して、実はそのルートをつなげるように充電スタンドをつくつてまいりましたら、今では日本で一番人口当たり多い県になりました。そういうようにエコな、従来とは違つた旅をやつていったらどうかなと思つます。

そういうような意味で、合同の観光プロモーションをさらに一層磨きをかけられればなと思つます。一つには、今、両県で例えば県広報でPRをすると。我々の方でも美作国建

国1300年のPRを県の広報でやって、岡山県さんでも私どもの広報を載せていただくとか、そういう紙面の交換というか、そんなことで両地域の一体化を図ることが一つはあろうかと思います。

また、これ過去にもこういうことをやってきましたドライブマップをつくろうとか、それから岡山鳥取湯けむり号という、これは湯原に行って、この三朝にも来るやつですけども、それから鳥取・岡山湯めぐりスタンプラリー、こういうようなこともやってきたわけですが、ちょっとこれも事務局同士でよく相談をさせていただいて、こういう合同の観光プロモーション、国内外のお客様誘致に動ければと思います。ぜひ伊原木知事の御協力と御指導をいただければと思います。

○伊原木知事 私は本当、知事になって初めてこの湯けむり号のこととか教えてもらったんですけど、これはいい企画ですね。ぜひどんどんみんなにPRしていかなければというふうに思っています。ぜひ大々的に頑張ってください。よろしくお願いします。

○平井知事 美作三湯と、それから鳥取県のこのあたりであります、実はJTBから聞きますと最近ちょっと観光で苦戦している状況がございまして、そういうものを何とかはね返そうと、こんな企画も出てきております。

また、海外からのお客様、台湾とか香港とかいろいろあろうかと思いますが、その辺はいかがでございましょうか。

○伊原木知事 前振りもすばらしいので大変スムーズに入れます。ありがとうございます。

台湾からのインバウンド観光客ということなんですけれども、本日、台湾のエバー航空の王社長が岡山県庁にお越しになられまして、この4月から岡山ー台北の定期便、これは季節便ではあるんですけれども、4月から10月まで週2便運航していただけるということになりました。

聞くところによりますと、せっかく台湾からこの日本に、岡山に来る場合、これまでのチャーターの実績によると、4泊5日の日程が一番何か人気があるんだそうです。そうになると、岡山だけで絶対に終わりませんので、ちょっと足を伸ばしてもらおうとなると、鳥取に行っていただくという非常にいいルートになりますので、これからもJTBさん初めいろいろな旅行会社と協力をして、いいツアーを組んでいきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いします。

○平井知事 ありがとうございます。エバーの御就航、本当におめでとうございます。

これからますます国際化が進んでくると思うんですね。岡山空港も各地、中国上海だと

か韓国とか便を持っておられまして、そういうところが実は岡山から近い鳥取にもお客様がルートとして来られるところになっております。もっともっとパイを大きくしないと日本の観光はじり貧になると思います。そういう意味で、具体的なそういうツアー造成をぜひ事務局の方にも知事の方から御指示いただいて、今回のエバーの受け入れに鳥取県もぜひ協力をさせていただきたいと思います。可能であれば一緒にプロモーションに行ってもいいと思いますし、台湾の方とかですね、今後そういう機会もぜひ御検討いただければありがたいなと思います。

そういう両県、両地域の連携でございますが、新しい政権ができて、そういう観光を支えるにも屋台骨、大動脈が必要でございます。そんな国土軸とも言うべき軸をいろんな形で設定していく必要があります。一昔前までは、岡山から鳥取にどうやって行くんだらうかというようなことがございましたが、平成に入り米子自動車道ができて、蒜山から大山、そして米子の町、松江へというふうに抜けていくルートが見え始めたわけがあります。そして、このたび3月には鳥取自動車道、姫路鳥取線と言われていた中国横断自動車道でございますが、これが開通をする見込みになりまして、西粟倉から大原の間8.3キロの開通が見えてきました。

また、ここ鳥取県の中部地域と岡山とのアクセスが最近非常によくなって、院庄のところのバイパスができてきたり、また、北条湯原道路というのを建設しております。これもここ数年で岡山側の方でも動きが活発化してまいりましたけれども、鳥取側でも、この5月か6月ぐらいかと思いますが、今年の夏前には倉吉インターチェンジから倉吉西インターチェンジまでの間の開通を控えることまで来ました。さらにその先を延ばしていこうということでございます。これに向けては、やはり両地域共同して国に対する働きかけ、予算の枠どりもありますし、直轄事業の実施ということもあろうかと思っております。

また、それぞれの県で整備をすべき道路ということもまたありましようから、これも考えていく必要があるかなと思います。例えば美作と岡山を結ぶ地域高規格道路、今、湯郷のインターチェンジとかできておられますよね。あれ実は鳥取県民にとっても非常に使い勝手がよくなると思います。私も家族で時々行く時に、やっぱり時には岡山の天満屋本店に行かなきゃいけないというような時には、なかなか、行こうと思うと今、中途半端なんですよね。ずっと中国縦貫から岡山自動車道を入れて、ぐるっと回って岡山総社から岡山インターチェンジから出ていってもいいんですけども、結構地元の者は下道を走るんです。そんなに時間的に変わらない。逆に言えばそれほどアクセスがよくないということなんで

すよね。だから、岡山の中心の方に出ていこうと思いますと、ああいう道路がつながってきますと、非常に鳥取県の中部や東部とそれから岡山との結節がよくなると思います。地域の一体化にもつながると思います。こんなようなことはそれぞれの地域にもございますので、ぜひ陰陽を結ぶネットワークを確立できるように御協力をいただければと思います。

○伊原木知事 私ども岡山県、これまでどちらかという横の山陽自動車道ですとか、早くいったのは中国自動車道、縦貫道があったわけですけれども、縦も随分しっかりしてまいりまして、完成できてないところをいかにつないでいくか、道路はつながってないという意味がないもんですから、やっております。

姫路鳥取線についても、できるだけ協力して早期整備に取り組んでまいりたいというふうになっております。私はどちらかという県庁の担当課から聞いて、これは頑張るんですというふうに聞いているんですけれども、あと北条湯原道路については、ようやく、唯一未整備区間として残っていたところが、昨年4月に整備区間に指定されまして、これは随分前進したんじゃないかと思っております。

あと岡山米子線、これは全線供用はしているんですけれども、やはり片側1車線になると、それはつながってないよりはありがたい、やり方とすればそうなるんだろうなと思いつながら、やっぱり中央分離帯がないに等しい状態ですから、安全性という点では劣りますよね、渋滞もありますし。実際、やはり何年かに1度、正面衝突、死亡事故というのが起こって、非常に残念に思っております。ぜひこちらについても片側2車線がきちんとできるように、安心して通れるように働きかけていきたいと思っております。一緒に頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

○平井知事 ぜひ、賀陽、北房のあたりの4車線化もありますし、米子道も蒜山のところまではつながったんですが、その北側の方が、雪があるんで非常に危ない対向2車線の区間が長うございます。また、鳥取自動車道も、このたびこうやって開通をしていただいで大変にありがたいんですが、追い越し車線がほとんどなくて、大体田舎のことでありますので、軽トラに乗ったおじいちゃんがとことこと走っていますとその後が大渋滞になるということがしょっちゅうございますので、ぜひ追い越し車線ないし4車線化というのを今後も働きかけができればうれしいなと思ひます。

そんなような道路網、ネットワークの整備がございまして、スポーツの面でも御提案があると伺っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

○伊原木知事 私も人生の半分スポーツにささげたようなところがあるんですけれども、

サッカーのJ2、私は岡山のことしかきちんと知らなかったんですけども、鳥取はガイナレ鳥取がありますし、徳島についても愛媛についてもそれぞれJ2があつて、本当、中四国で「PRIDE OF 中四国」できました。私も説明を受けて、ああ、そうだったのかということですし、特に鳥取県さんとは陰陽ダービーですので、ここはぜひ盛り上げたいと思っています。我々、ホームで応援するだけじゃなくて、アウェーの時にみんなで出かけて行って、ついでに岡山のPRもしようという事業を数年前から一生懸命やっておりますし、そちらにお邪魔することもあるかと思っています。どこかの時点で、できれば今年、ガイナレさんとファジアーノの試合を2人で応援するような機会があればなあと思っています。日程もわかっていませんし、当然いろいろ、お互いを応援するわけですからあれなんですけど、そういうことも含めまして、ぜひ盛り上げていきたいと思っています。よろしくをお願いします。

○平井知事 ではぜひ、日程はまだ決まってないですかね。鳥取も何とかJ2に残ってよかったということございまして、新年度もまたマッチができますから、ぜひ伺いたいと思います。それで、非常にお客さんの入りがいいんですよね、陰陽ダービーは。お互いのサポーターが行きやすいこととございまして、盛り上げていきたいと思っています。

また、ご当地グルメがブームでありまして、先ほども知事には喜んでいただきましたが、倉吉でもひるぜん焼そばを売っておりました。そのようなこととございますが、鳥取でも実はホルモンのそばが、ホルそばというんですけども、ホルモンうどんというのが津山の方にございますので、多分文化は一緒なんだと思いますが、そういうようなことだとか、いろいろとお互いのグルメがございまして。

実は蒜山の皆さんも毎回出てこられるんですけども、大山のところでは全国バーガーフェスティバルをやっています、これで各地が競い合うんですね。今、北海道が強くて賞をかつさらっていくんですけども、やはりそういうような多くの方々が食の魅力で集まってくる、それがまた地域イメージにつながってくるようなことって大切だと思うんですね。岡山県は、日生のカキオコであるとか、非常に先進地とございます。鳥取県も実はいろんなご当地グルメも開発して売り出したりしております、この辺で一緒にいろんなイベントをやったり、売り込みを図ったり、これも事務局同士で盛り上げていただければありがたいと思っています。

○伊原木知事 全くそのとおりでありまして、この前も備前に行きまして、ご当地グルメフェスタがあつたんですけども、その時も、米子いただきがいな隊ですか、出張してい

ただいております、非常にありがたいですし、我々の方からも出張させていただいて、本当にいいことですよね、元気になりますし。それも何かすごく遠いところから高いものを持ってきてありがたくいただくというんじゃなくて、自分たちのものを活かして、わいわいお祭りをするというのは本当に素晴らしいことなので、ぜひ一緒に盛り上げていきたいと思います。よろしくをお願いします。

○平井知事 ありがとうございます。

それから、ちょっと話題が変わりますけれども、お互い同世代でございまして、子育て世代的な時期でございます。子育てというのは私たちの世代の使命でありますけれども、少子高齢化が進んでおります。鳥取県もいろんな施策をやっておりますが、そんなこともあって例の合計特殊出生率が急上昇しまして、昨シーズンは鳥取県の上昇率が全国でもナンバーワンになりました。細かいことをいろいろやるんです。保育所のことだとか、あるいは先生の加配みたいなこととか、そういうようないろんな手だてをやりながら、子育ての応援をしていくというのは大切だなと思っています。ぜひこういう若手の我々で、実は広島湯崎知事にもお声がけをしているんですけども、「子育て同盟」のような政策同盟をやったらどうだろうかと今プランを練っているんですけども、もしよろしければ御参画いただけるとありがたいなと。

○伊原木知事 いや、もう大変光栄なことございまして、ぜひ岡山県もその同盟に入れていただきまして、これは同盟に参加してないところは敵として戦うということになるんでしょうか。まあ同盟ですからね。いや、でもそういうふう実際に成果を上げていらっしゃる県のいろんな取り組みを参考にさせていただいて、社会減があるのであれば、ぜひ自然増で埋めるぞという勢いで、お母さん方に働ける県にしたい、働いている人が子育てができる県にしたいと思っていますので、ぜひ教えてください。よろしくをお願いします。

○平井知事 ぜひまた御参画いただければありがたいと思います。

また、実は今、やっぱり広島、島根にも参加させていただいて障がい者福祉で「あいサポート運動」というのをやっています、障がい者の共同参画事業です。これも最近、島根、広島にも広がりまして、今、山口県さんも真剣に検討し始めておられます。中国地方から全国に向けていくような事業かなという思いもございまして、この辺もまた伊原木知事に御検討いただいて、よろしければ御参加を。

○伊原木知事 中国5県で岡山県だけはじかれているというのは非常にちょっとよくないものですから、ぜひ御一緒にさせていただきます。よろしくをお願いします。

○平井知事 また後々ちょっと御説明をさせていただければと思います。

そういう中で、連携の枠組みとして打って出る、さっき敵と戦うという話がありました。中国地方の雄として山陰、山陽両方で打って出る、首都圏とか大阪とか、そういう主戦場があると思います。そういうところでの連携がいかがかと思いますが。

○伊原木知事 いや、全くそのとおりでございまして、首都圏、京阪神において、鳥取県さんでは、普通東京事務所、大阪事務所と呼んでいるものを、東京本部、関西本部というふうに変えていろいろ攻めていらっしゃるんだというのを教えていただきまして、私は、そのちょっと前に初めて大阪の岡山県大阪事務所を視察しました時に、ここは事務所じゃない、ここは営業所だと、岡山県を売り込んでいるんだから、どしどし売り込んで、売り込んだ先の棒グラフでも立てて頑張れみたいなことを半分冗談、半分本気で言ったんですけれども、早速鳥取県ではそういうふうな、何というか、ただ事務をするところじゃないんだよということを明白にされていることを聞きまして、非常に感銘を受けた次第でございます。ぜひ、今うまくいっているところを教えてください、参考にさせていただいたり。実は岡山県、首都圏においてアンテナショップを持っていない数少ない県なんですけれども、いよいよアンテナショップ設立に向けて動き出しまして、ぜひいろんな先進的な取り組みをしている県の、特に鳥取県さんのやり方を参考にさせていただきたいと思っています。

○平井知事 ぜひそういうアンテナショップとか、例えば就職なんかもあると思いますし、I J Uターン、これも岡山県さん得意分野であります。鳥取も実は今急増しているんですね。いろんな意味で、そういう拠点を共同で持ったり説明会だとかいうことをやっていくのは大変にいいことじゃないかなと思うので、この辺も東京や大阪でやれそうなことをピックアップして、一緒になればいいなと思います。

私ども本部体制をしきましたのは、ある程度機能を、いわば決定権も与えながらというつもりでやりました。それで関西には関西本部と。もともと大阪事務所とうちも言っておりました。それで大阪本部としようかなという思いだったんですけども、大阪本部という名前がつくと、京都や奈良や神戸の人たちのプライドがいたく傷つくらしいので、関西本部ということにしまして、名前を変えたわけです。東京本部も名前を変えなきゃいけないんじゃないかというふうに分ったら、東京という名前については、埼玉や神奈川がプライド傷つかないみたいでございまして、そこは東京本部のままの方がいいと逆に言われました。地域性もあるようなんですけれども、中でいろんな事業をやっております。

特に物産とか大切だと思うんです。私も、大分議会の反対もあったんですが、東京でアンテナショップを出させていただきました。何とかまあ黒字で今……。

○伊原木知事 あ、黒字なんですか。

○平井知事 ええ。要は家賃のところとか若干のあれはあるんですけども、恐らく鳥取は一番安上がりでやっている県のうちの一つじゃないかなと思います。本当の黒字は、やっぱり北海道とか沖縄、あそこはほっといてももうかるんですね。我々のところは非常に厳しいんです。本当だったら何県かで一緒にやってもいいんじゃないかなという思いぐらいあるんですけども、いろいろ工夫をしたり、両方のショップでお互いのものをイベント的に売るとかいうこともあると思いますし、スタンプラリー的にですね。回りたい人は結構いるみたいですから、その辺もぜひ御指導いただければありがたいかと、ちょっと現場でも話をさせていただければと思います。

○伊原木知事 アンテナショップが黒字だと聞いて、何か一瞬後光が差して見えましたが、ぜひ参考にさせていただきます。ありがとうございます。

○平井知事 それで、そういう国内で売るのもいいんですけども、海外にやっぱり農産品を売り込む時代だと思うんですね。TPPとかいうことを言われています。農業構造を改善していくためにも、強い農業を育てる。正直できそうな気もしてきています。岡山県さんは、昔からマスカットとか桃とか、高級フルーツとして東南アジア等でも活発に売っておられますが、我々も二十世紀ナシが昔からブランドで、台湾やアメリカ等で売ってきました。また、富有柿のような柿をタイの方でも売ったりして、一応ブランド的にも今育ちつつあるものもあるわけではありますが、こういうことをどんどん盛んにしていこうと思えますと、大変お金もかかりますですよ。そういう例えばフェアみたいな形で共同でできることがあるかもしれませんし、発展形としては、共同で海外で事務所なりエージェントを使ってやっていくこともあるのかなと。

特に農産物はおもしろいかなと、実は岡山県さんとの関係でかねて思っていたんですが、あんまり作柄がかぶらないんですね。

○伊原木知事 ああ、はい、言われてみれば。

○平井知事 そうです。水産物も瀬戸内と私どもの日本海とでは違いがございまして、それからつくっているフルーツ類も、主力が大分異なります。そういうことでいきますと、仮にフェアを構えた時、一緒にフェアをすると、むしろバラエティーができて、そういう売れ筋商品を幾つも買えるおもしろさが消費者にも出るかなと思います。ぜひこの辺も、

ちょっとこれもまた事務局同士で調整が必要かもしれませんが、相談をさせていただければと思います。

○伊原木知事 確かに外に打って出る、私はぜひやりたいんです。守る農業もあるんですけども、とにかく農業で攻めていきたい。質が高いですからね、特にこの果物とか中心に。中国でも台湾でも、所得の高い人ほど日本のものはおいしいというふうにおっしゃっていただいていますから、ぜひ頑張っていきたいと思います。

それに当たって、日本に47もある都道府県がそれぞれ行くというのは、大変ですよ。それこそ中国5県でどんと行ってもいいぐらいですし、アメリカから何か売り込む時に、州単独で売り込んでいたことも余り知りませんし、それに近いというオレアイダという、昔オレゴンとアイダホのあれなんだって聞いてびっくりしたんですが、やっぱり自分たち、一つの州でやるんじゃなくて、やっぱり組んでやるとか固まってやるとか、絶対その方が効率がいいですし、効果が高いですから、一緒をお願いします。

○平井知事 ええ。ぜひじゃあちょっとこれもまたプロジェクト的に今後、新しい課題として相談させていただけるとありがたいと思います。

実は鳥取県は境港という港から農産物の輸出を最近始めておりまして、ロシアに持っていく数少ない航路がございます。フェリーだもんですから鮮度の関係が大切なんですけど、必ず週1便行くというのがあります。これに最近は広島も乗ったりしているんですが、物流もお詳しいと思うんですが、結局混載というのは難しいわけですよ。ある程度ロットをつくらないと輸送費にお金がかかってしまう。ですから、鳥取のものだけでとても埋まらないものですから、何県かのものを一緒に乗せて売り込むと。スイカなんかも向こうでは7,000円ぐらいで売れます。こちらだと2,000円ぐらいなものでありますけども、岡山の例えば桃とかマスカットとか、まずはチャレンジからだと思いますが、共同でそういう売り込みを今後販路を広げていくことはいかがかなとも思います。

○伊原木知事 ぜひ御一緒させていただきたいと思います。とりあえず試してみて、ダメだったらまた考えればいいわけですから、よろしくをお願いします。

○平井知事 どうもありがとうございました。

以上で事前に伊原木知事と一緒にピックアップをしていた項目はスルーしましたけれども、何か特にございますかね。

○伊原木知事 私は、これまでどうだったのか知らないんですよ、本当に知らないんですけども、県の単位が小さ過ぎるから道州にするべきだという話があって道州制のことと

かあるんですけども、それがどうかはわかんないんです。とりあえず今は47の県に分かれていますから、そこでいろいろ一緒になって、お互い、いいことをやり尽くしてみ、そこから初めて道州制なのか広域連携、何かその次のステップが見えてくるんだと思います。それをやっていないのに、こうしたらいいかもしれないというのは、私は順番がちょっと違うかもしれないということで、まだまだ岡山県にとってお隣の鳥取県さんとやれることがいっぱい残っている。ぜひどんどん進めていきたいと思っています。教えていただきますので、よろしくお願ひします。

○平井知事　そういう意味で、知事も御就任なさいましたので、両県の企画かどっかのパイプをちょっともう一度つくって、それで今おっしゃったようにいろんなことが実は共同化できるんじゃないかと。例えば事務所だとか、あるいは物産の売り込みだとか、観光もそうだと思いますが、その辺の洗い出しを両県間で改めて、伊原木知事が御就任なさったことでもありますので、やってみたらどうかと、今ちょっとお話を聞いていて思いました。

あと、あわせて両県間の広域連携をもっと強めていける時代に鳥取自動車道の開通などで入ってきたと思うんです。それとあわせて広域連合の検討も、我々みたいな若い者が全国をリードしていかなきゃいけないことだと思います。一足飛びに道州制の議論までなかなか、市町村の反対もあつていきにくいんだと思いますので、まずそういう広域連合も2人で進めながら、今おっしゃるようなことからやっていくのが本筋じゃないかと思っていますので、よろしくお願ひ申し上げたいと思います。

以上で大体話も尽きたと思います。これで今年の、実は2回目になりますけども、伊原木知事が就任されて初めての岡山、鳥取両県知事会議を閉幕とさせていただきたいと思ひます。本当にどうもありがとうございました。

○伊原木知事　ありがとうございました。

○平井知事　それでは、引き続いて記者会見の方に入りますが、そっち（事務局）の方にマイクを渡します。

○司会　どうもありがとうございました。

そうしますと、時間も限られておりますが、これから記者会見を開催したいと思ひます。なお、質問の際には、社名、氏名を言つていただいて御質問をお願ひしたいと思ひます。何か御質問ございませんでしょうか。

どうぞ。

○山陽新聞社　岡山県の山陽新聞といいます。座らせていただいて。

今日の緊急アピールのことで3点ほどお尋ねしたいと思うんですけども、まず1点は、アピールをした内容を今後どのような格好で国に働きかけていくのかという手段の話、どうされるのかというのがまず1点と、それと、実際の国家公務員の給与の方が低いという全国的な傾向が出ているわけですけども、具体的にどのような対案を示していくのかという案があれば、その辺も考え方を聞かせてください。3点目は両県知事にお伺いしたいんですけども、仮に交付税が減額となった場合、県職員の給与をどのように考えていくのかと。現時点で言える内容で結構ですので、その3点をお尋ねします。

○平井知事　じゃあ、伊原木知事はまた、私がまず先に話した上でコメントをお願いできればと思います。

まず第1点目の緊急アピールを今後どういうふうに伝えていくかということですが、両県でなるべく早いタイミングで政府の方にも届けたり、もちろん今日の報道を通してアピールをさせていただくということだと思います。私は一番近いところでは23日に上京しますが、全国知事会でお見えになりますですね。もし可能であれば、その時にでも時間調整ができればさせていただきたいと思いますし、取り急ぎ国の方にはアピールを送りたいと、事務局としてさせていただきたいと思います。

それから、対案ということでございますけども、これは、私はその理屈は通らないと思っています。本来、給与をカットするのが国の方が進んでいるからという話ではありますが、この両県をとっていただければ御理解いただけると思うんですけども、それぞれの自治体が努力をしています。我々のところでいったら、国はまだカットしても高いではないかと、何偉そうな顔してるというのが我々の思いであります。ですから、それについて交付税カットというのは全く理解できないですね。これは交付税を切りたいがための方で言っているんじゃないかというふうに思います。ですから、こうしたことによらない対策を本来求めるべきだと思います。少なくともこのような地方の議論というものを受けとめて、国としては対処をしていただく必要があるだろうというふうに思います。

私は、これは伊原木知事とすり合わせをしているわけでもございませんけれども、鳥取県としても、これまでも震災対策、あるいは防災を進めていくための地域づくりに当然ながら財政支出も含めて協力をしてきました。そうしたことで、地方が独自に対処していく、自主的に対処していくというのが本来ではないかと思っています。そういう意味で、国の方も一方的に交付税を切って終わりということよりも、本来であれば地方の我々が交付税も受け取った上で、自分たちで議会も含めて議論をして、財政支出も含めて震災に協力をして

いくとか、それが本筋ではないかというふうに思います。

このような考え方でありますので、3点目であります。今回、給与カットをさらに追加して行うというのは理屈に合いませんので、鳥取県としては検討の余地はございません。少なくとも、非常に今事務局の職員が一生懸命メモをとり始めましたけども、少なくとも我々としては、今後とも県民に対し説明責任が果たせる給与適正化の努力は行っていきますけれども、ただ、今回の交付税カット云々という国の暴挙を受けて追加でやるという気持ちにはなれないということでもあります。

○伊原木知事 第1番目は同じであります。できるだけの機会を使って幅広くアピールをしたいと思っています。

あと対案についてなんですけども、対案を用意するつもりがないんです、そもそも。これは我々の問題意識にあることではありませんので。これは全国知事会の方で用意した資料なんですけれども、世間一般の皆さんで、地方の方が給料が高いという印象があるかもしれません。確かに30年ぐらい前、すごく問題になりまして、本当に高かった。ただ、随分状況が変わっていますし、この10年で見ますと、地方の方がよっぽど努力をしている現実がございます。例えば職員数の削減をどれぐらい頑張ってきたかということであれば、平成13年から22年まで10年間で、国は現業を除いて3%しか減っていないわけなんですけれども、地方がどれだけ減らしたか、18%減らしています。これはかなり身を切ってきた証でありまして、これは全国都道府県ですけれども、一般行政の職員がこれだけ減ってきた。これも現業を除いている数字ですけれども。

あともう一つ、給与自体も随分下げています。この10年間で、これは平成11年度から23年度までですけれども、すべての都道府県の独自の給与カットの累計が2兆円を超えています。今、国と地方で給与カットをして2兆円を捻出してということなんですけれども、この10年間で実は地方は独自の、自分たちで何とかつじつまを合わせるために、47都道府県、2兆円を超える給与カットを行ってきています。その時代、この10年間国は何をやっていたかという、していなかったわけなんですので、国が始めた途端に足並みをそろえろという非常に乱暴な話だなと思っています。

特に岡山県、鳥取県、もしくは北海道もそうだと思うんですけれども、好きで給与カットをしていたわけじゃないんです。給与カットをして、もう本当によく収支を合わせてきた。その現状が変わらないところに、またさらに切り込まれたら、どういうふうにして予算を立てていけばいいのか。私も民間企業で予算組み、収支を合わせることに苦労し

てきた人間なわけでありますが、これは厳しい。ぜひちょっときちんと考え直してもらいたいと思っています。

3番目の質問でございますが、この前、記者会見で申し上げましたとおり、これは約束でありましたので、現在でも7.4%平均の給与カットは、一旦3月末で終わりになります。4月1日から戻ります。ただ、そのままいくと50億円以上の収支のマイナスが出てくる。この現状を考えると、やはり各方面と御相談をせざるを得ないであろうと思っています。そこにまた今回、幾らになるかわかりませんが、カットをされるとなると、より状況が厳しくなりますので、本当に真剣に関係者各位と相談をしなければいけないと考えています。

○時事通信社 時事通信鳥取支局の小出と申します。

今日の会談の中で、様々な点でお互い合意された点があったと思うんですが、例えば今質問に出ましたこの緊急アピールなんかも非常に重要な問題だとは思いますが、その他で今日両知事で合意された内容において、特にここが今日の会談の成果かなという場所があったら、両知事、それぞれお願いします。

○平井知事 じゃあ先にお話をさせていただきます。

ちょうどエバー航空さんが岡山に乗り入れられるということが決まったというのは、大変なニュースだなと思って先ほど伺いました。こういうことをきっかけにして、海外からの誘客で陰陽連携により4泊5日とかのコースを組むということは、大変に意味があると思います。

また、海外への売り込み、強い農業を育てていく意味でも、これも協力していこう。これも私としては大変に伊原木知事の心強いお言葉だというふうに思いました。

○伊原木知事 では、私の方から。

私は、子育て同盟に入れていただいたのは大変うれしく思っています。とにかくこれは大きな旗を掲げてぐいぐい進めていかないといけないなと思っているものですから。

あともう一つ、海外に攻めていく、もしくは首都圏、関西圏に攻めていくに当たって、一県単独でやるとどうしても効率が悪いということにおいて、ぜひ一緒にやっていきましょう、ノウハウを共有しましょう、お互いロットを増やしてコストを低減させていきましょうというふうにおっしゃっていただいたのは、大変心強いことでもあります。私とすれば、近隣の県と協力をして、お互い得になるようなこのような協力を積み上げていきたいと思っています。

○読売新聞社 読売新聞の野口と申します。両知事にお伺いします。

今日の議題にはなかったんですが、教育問題であります。伊原木知事は教育県岡山の復活ということを掲げられて当選されたというふうにお伺いしております。平井知事も教育委員会と協約という形で目標をルール化するといえますか、契約を結ぶという形で教育問題に取り組んでいらっしゃると思います。お互いの教育問題に対する問題意識は共通するようなところもあるかと思うんですが、それぞれの何か教育に対するお考えを披瀝していただければと思います。

○平井知事 私は、やはり大切な未来の担い手である子供たちの資質の向上、これが地域の未来でもあると思っています。ですから、教育を地域全体で応援をしていく、こういう体制をつくんなきゃいけないと思います。学校ボランティアの推進であるとか、それから鳥取県として小・中・高連帯するような、そういうスクラム教育というようなことをやっていますけども、こんなようなことをしていく必要があります。

その際に、新しい政権が掲げておられる課題の一つではありますが、教育委員会制度については、もうそろそろ制度疲労の時期を迎えていると思っております、この辺が新政権の中で議論されることは歓迎を申し上げたいと思います。

ただ、橋下市長みたいに、ちょっと不祥事があったから入試を今この1月、2月の時にやめちゃうというのは、私は、デリカシーも考えなきゃいけないと思っています。結局子供たちの世界というのは非常にデリケートな部分があります。従いまして、現場としっかりと意見交換もしながら、それを地域で包み込んでいくことは、岡山県もそうだと思いますが、鳥取県のような土地柄では可能だと思います。ですから、対立の構図だけを持ち込むことは、多分時間の浪費になったり、しわ寄せもあると思います。

鳥取県としては、むしろ教育現場の納得を得ながら、協約でしようということを考えていると思います。現実にも、少人数学級を小・中全体でやることもかないましたし、いじめ対策でも速やかな展開を図ることはできたと思います。ただ、まだまだ私の理想からすると十分でないと思っております、これからも教育現場に対して私の方から仕掛けてまいりたいと思います。

○伊原木知事 岡山県なんですけれども、はっと気がついてみると全国でもかなり下の方になってきています。何で下の方なのかというと、ほぼすべての領域においてということになります。例えば小学生の学力テスト45位、中学生で42位、校内暴力、暴力行為については小・中・高のトータルで全国ワーストということになっています。学力のことと

問題行動、これは2つ別なんですけれども、当然ながら関連をしているわけです。

とにかく私は、岡山県にある問題が起きていると言われている学校、どこで区切るかで全然数は変わってくるわけなんですけれども、中学校で40校、小学校でも10校程度が、大体みんなが共通して、これはやっぱり問題だと言われている学校がリストアップされているわけなんですけれども、そういうところを中心に真っ当な授業が受けられるようにする、落ちついて授業を受けられるようにする、これがまず第一だと思っています。それができれば学力はある程度ついていきますし、学力を向上させるというのは、いろんなテクニックの問題で工夫ができますので、まずもって基本として学校をきちんと機能させる、そこから手をつけなければいけない。残念な話なんですけれども、そこから手をつけてまいります。

私とすれば、これからの教育、以前と今の日本は違うわけですから、どういう子供を育てていくのか、どういう若者を育てていくのか、ぜひ前向きに努力できる若者を育てていきたいと思います。将来その子供たちが大人になった時に何が必要になるのか正確に見通すことは、これは不可能なんです。英語をしっかりと学ばせたい。もしかしたら中国語というのがもっともっと大事になってくるのかもしれない。算数と社会と理科と、どれが大事なのか、本当の意味で見通すのは無理なんですけれども、でも、どういう状況に立ち至っても前向きに努力する。これまでの学校教育において、努力をすることによって困難を乗り越えた経験を持って、多少の壁は乗り越えていく気概を持っている。かつまた、そういう力強さとともに、周りの人と協力していく。困っている人がいたら助けてあげる。そういう優しさを持った、そういう子供たちを岡山でたくさん育てることができれば、それはもう本当に岡山の未来は明るいと思っています。

個別の話になると、いろいろ人によって考えは違ってきますし、技術論があるんですけども、そういうしっかりした元気な子供たちを育てたい。私の任期4年間、しっかり頑張っていきたいと思っています。

○司会 そうしますと、以上で記者会見を終了させていただきます。どうもありがとうございました。